

2013年3月期 決算概要 & 中期経営計画ローリング



日 時： 2013年5月21日（火）16:00～17:00
会 場： フクダ電子株式会社 本郷新館



目次

2013年3月期 決算概要

中期経営計画

連結業績	3	フクダ電子の経営理念	9
連結業績 3カ年推移	4	経営環境の変化	10
セグメント別売上高 3カ年推移	5	フクダグループの特徴を活かした事業展開	11
販売費および一般管理費	6	フクダグループの事業領域	12
為替変動の業績への影響	7	病院市場における製品展開	13
		病院での患者情報をシームレス連携	14
		診療所市場における製品展開	15
		診療所向けソリューション	16
		在宅医療分野への取り組み	17
		中期業績目標 ①	18
		中期業績目標 ②	19
		株主還元方針	20



2013年3月期 決算概要

連結業績



単位：百万円	2012.03 (11年度)	2013.03 (12年度)	増減額	増減率
売上高	92,524	96,239	+3,715	4.0 %
売上総利益	43,452	45,326	+1,874	4.3 %
販売費及び一般管理費	34,260	35,085	+825	2.4 %
営業利益	9,192	10,240	+1,048	11.4 %
経常利益	9,423	10,435	+1,012	10.7 %
当期純利益	5,266	6,462	+1,196	22.7 %

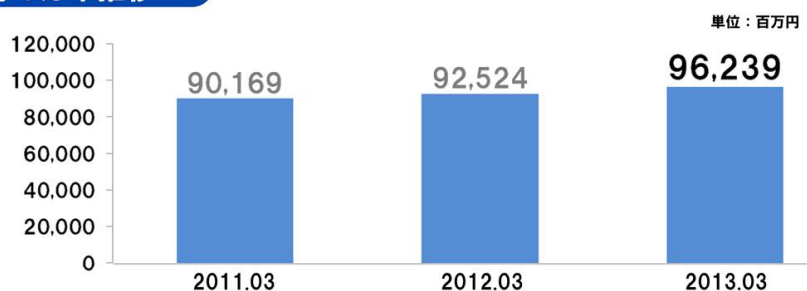
3

- 当社の2013年3月期の連結決算概要です。
- 当連結会計年度におけるわが国経済は、昨年末の政権交代による経済・金融政策への期待感から株価上昇や円安が進み、企業収益や消費動向にも明るい兆しが見られるなど、景気回復への期待が高まっております。
しかし海外では、欧州財政問題、新興国の経済減速が懸念されるなど引き続き厳しい状況が続いております。
- 医療機器業界においては、診療報酬はわずかながらプラス改定にはなりましたが、医療機関では引き続き効果的かつ効率的な経営改善が求められております。
- このような環境の中、当連結会計年度の連結売上高は962億39百万円（前年同期比4.0%増）となりました。利益につきましては、連結営業利益102億40百万円（前年同期比11.4%増）、連結経常利益104億35百万円（前年同期比10.7%増）となりました。連結当期純利益64億62百万円（前年同期比22.7%増）となりました。
- なお、連結売上高、連結営業利益、連結経常利益、当期純利益は過去最高を更新いたしました。

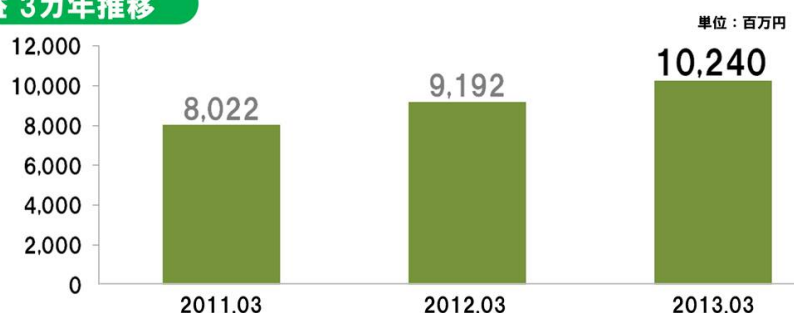
連結業績 3カ年推移



売上高 3カ年推移



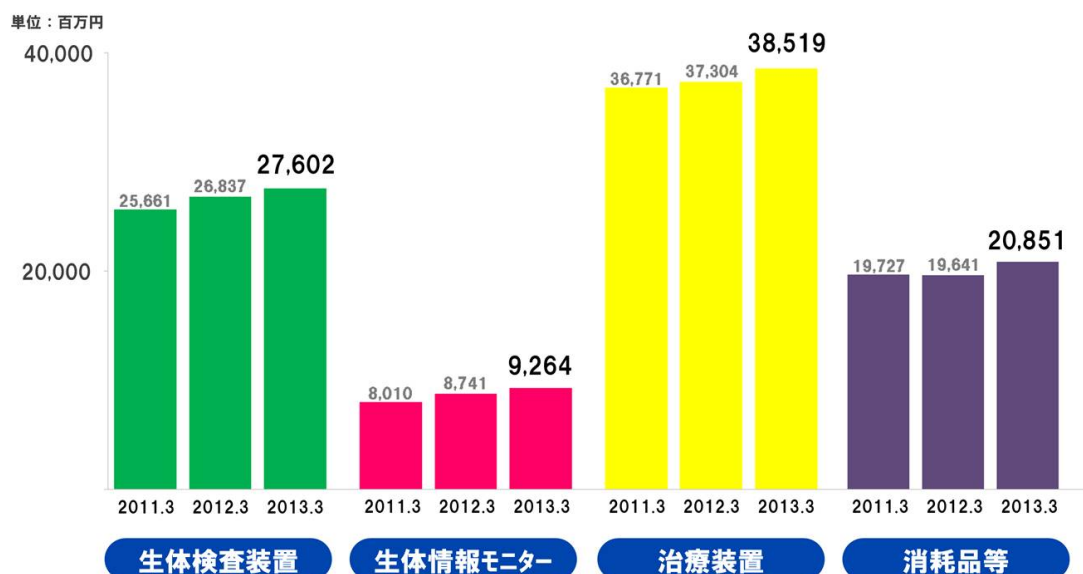
営業利益 3カ年推移



4

- 連結業績の過去3カ年の推移になります。
- まず2011年3月期からの売上高の推移になります。
- 2012年3月期は、2011年3月期と比較して2,355百万円の増収、2013年3月期は、前年と比較して3,715百万円の増収、2011年3月期と比較すると、6,070百万円の増収となっています。
- 一方で2011年3月期からの営業利益の推移になります。
- 2012年3月期は、2011年3月期と比較して1,170百万円の増益、2013年3月期は、前年と比較して1,048百万円の増益、2011年3月期と比較すると、2,218百万円の増益となっています。

セグメント別 売上高 3カ年推移

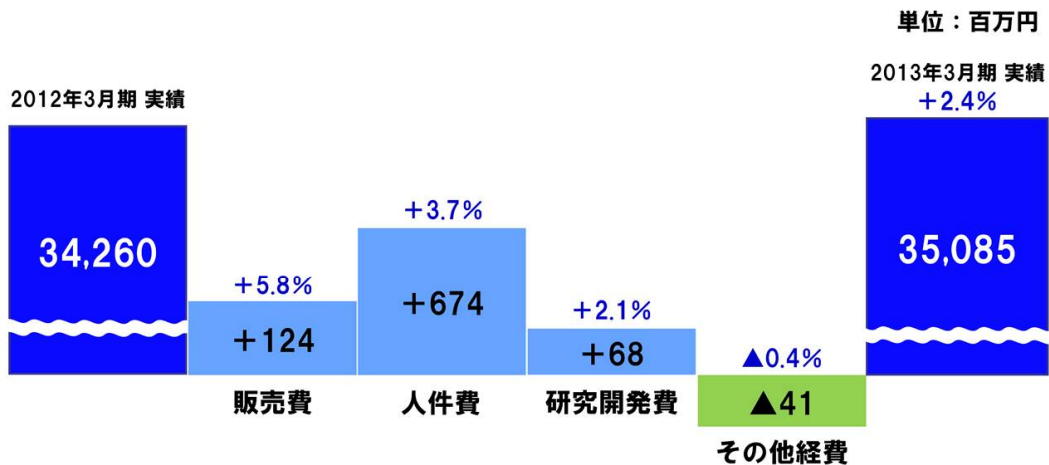


各セグメントで売上高が増加

5

- セグメント別の概況になります。
- 生体検査装置につきましては、心電計関連、血圧脈波検査装置の売上は伸長しました。その結果、連結売上高は276億2百万円（前年同期比2.9%増）となりました。
- 生体情報モニターにつきましては、連結売上高は92億64百万円（前年同期比6.0%増）となりました。
- 治療装置につきましては、在宅医療向けレンタル事業の売上は引き続き伸張しました。人工呼吸器は第4四半期において第3四半期までの落ち込みをカバーするまで回復しました。一方で、AED、ペースメーカーの売上は減少しました。その結果、治療装置につきましては、連結売上高は385億19百万円（前年同期比3.3%増）となりました。
- 消耗品等につきましては、連結売上高は208億51百万円（前年同期比6.2%増）となりました。

販売費および一般管理費



**積極的な営業活動に伴い販売費や人件費に加え
研究開発費も増加
採算改善への取り組みを推進しその他経費は削減**

6

- 販売費および一般管理費は、全体では825百万円程増加しています。
- 積極的な営業活動に伴い販売費が増加した他、人件費は販売力強化のため前年比で674百万円の増加となりました。研究開発費も同様に、68百万円程の増加となっていますが、今後も研究開発投資を維持しながら、販売管理費全体をコントロールしてまいります。
- また、採算改善への取り組みを推進した結果、その他経費は前年比で41百万円のマイナスとなっております。

US\$が1円変動した場合

±0円（影響なし）

ユーロ€が1円変動した場合

約 12 百万円の影響

通貨		2012.03 (11年度)	2013.03 (12年度)	2014.03 (13年度)
US\$	実勢レート	79円	83円	—
	社内レート	85円	75円	90円
ユーロ€	実勢レート	110円	107円	—
	社内レート	115円	105円	120円

7

○為替変動の業績への影響については、2013年3月期の外貨別入出金実績に基づいて試算しますと、US\$が1円変動した場合は±0円で影響はございません。また、ユーロ€が1円変動した場合は約12百万円、円安に推移した場合は当社は輸入が超過しているため業績への影響はマイナスとなります。

○社内レートにつきましては、2013年3月期はUS\$を75円、ユーロ€を105円で設定していましたが、円安の流れを受け、2014年3月期はUS\$を90円、ユーロ€を120円で設定しております。

中期経営計画

○中期経営計画のローリングになります。

経営理念

**社会的使命に徹し、ME機器の開発を通じて、
医学の進歩に寄与する**

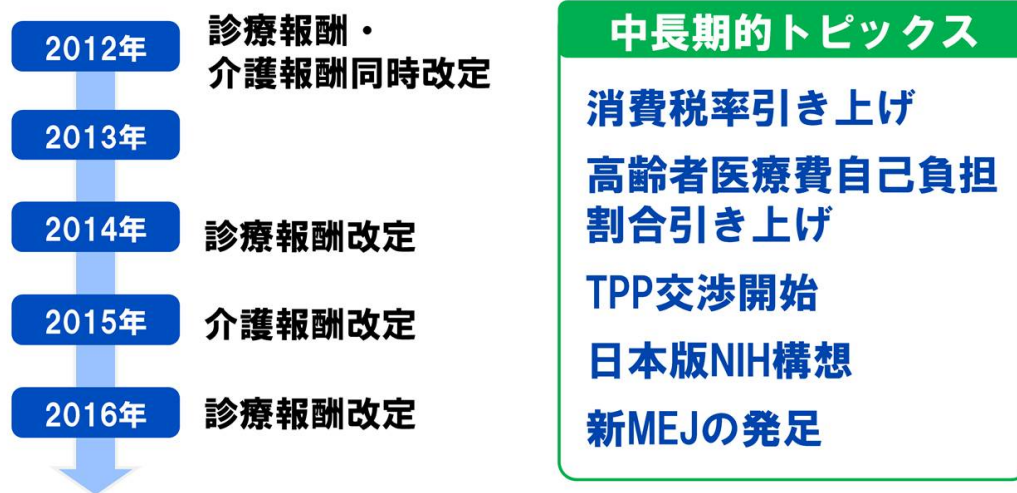
経営基本方針

**安全・安心・快適を基軸とした
「お客様に信頼される企業」となり、
予防・検査～治療～経過観察～在宅まで
地域医療を支える製品・サービスをご提供**

9

○当社は「社会的使命に徹し、ME機器の開発を通じて、医学の進歩に寄与する」という経営理念の下、医用電子機器メーカーとして、安全・安心・快適を基軸とした「お客様に信頼される企業」となり、予防・検査～治療～経過観察～在宅まで、地域医療を支える製品・サービスのご提供を経営の基本方針として掲げております。

少子高齢化に伴う社会保障制度の動向に加え
M&Aやグローバル競争の激化も



10

- 経営を取り巻く外部環境としては、少子高齢化に伴う社会保障制度の動向に加え、M&Aやグローバル競争の激化なども想定されます。
- 具体的には、昨年度2012年4月に改定となった診療報酬、こちらは2年毎に改定されますので、来年の4月および2016年の4月に改定となり、その内容により当社の業績に大きなインパクトが生まれる可能性があります。
- それ以外にも、中長期的トピックスとしては、2014年4月と2015年10月に予定されている消費税率の引き上げや、現在先送りの検討されている70歳～74歳までの高齢者医療費自己負担割合の引き上げ、さらにはTPPによる医療環境の変化や、新政権下で掲げられている日本版NIH構想による製品開発への影響に加え、グローバル市場においては当社も参加している新MEJ（Medical Excellence Japan）の動向などについても注視してまいります。

予防・検査 → 治療 → 経過観察 → 在宅
 地域医療を支えるビジネスモデル



効果的・効率的な医療サービス実現を支援

11

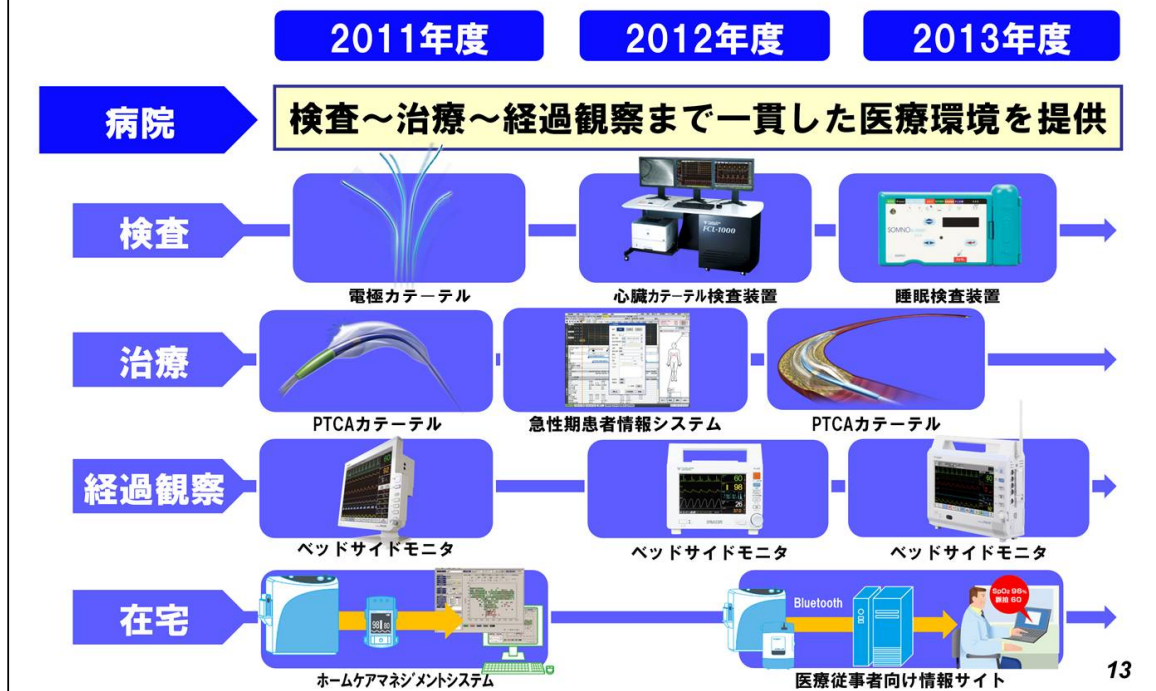
- 以上のような外部環境を踏まえ、フクダグループとしては、その特徴を最大限に活かした事業を展開してまいります。
- 具体的には、予防・検査→治療→経過観察→在宅の地域医療を支える一貫したビジネスモデルにより、医療機関などにおける効果的・効率的な医療サービス実現を支援してまいります。
- 当社では、こちらにございますとおり、診療所、救急、病院、在宅まで、さまざまな製品群とサービスをご提供しております。



○こちらが当社の事業領域を概観したのですが、縦軸が病院から診療所・在宅、横軸が予防検査から治療といった領域になりますが、予防検査分野では心電計・ホルターや血圧脈波検査装置、血球計数装置、SASの検査装置などの品揃えがあります。

○経過観察では生体情報モニタ、治療分野においてはPTCAカテーテル、人工呼吸器、ペースメーカーに加え、AEDなどを取り扱っております。

○在宅分野においては、酸素濃縮器や睡眠時無呼吸症候群の治療で使用するCPAPなどを取り扱っております。



○こちらでお示しておりますのが、病院市場における当社の製品展開でございます。

○検査分野においては、電極カテーテルや心臓カテーテル検査装置、最近では睡眠評価装置などを市場投入しております。

○治療分野においては、自社製のPTCAカテーテルや急性期の患者情報システム、経過観察分野においては、ベッドサイドモニタのラインナップを充実させております。

医療シーンに応じたラインナップを刷新

救急搬送

薄さ75mmコンパクト
バッテリー駆動3時間



ベッドサイドモニタ
DS-8100

オペ室・ICU

人間工学に基づき
操作性を向上



ベッドサイドモニタ
DS-8500

病棟

人工呼吸器と
アラーム連携も

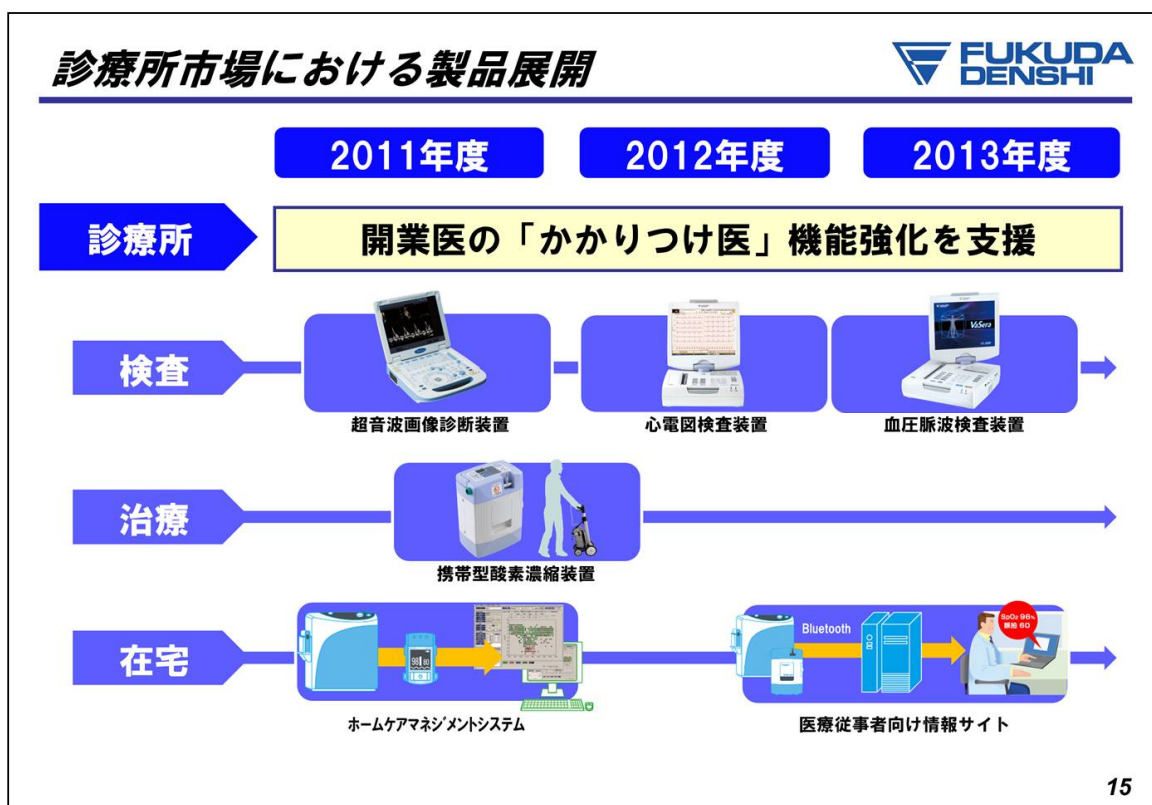


ベッドサイドモニタ
DSL-8001

救急～オペ室・ICU～病棟までトータルサポート

14

- 具体的には、医療シーンに応じたモニタ製品のラインナップを刷新し、救急からオペ室・ICU、病棟まで、トータルサポートを実現しております。
- こちらの、生体情報モニタのDS-8000シリーズにおいて、コネクタやモジュールの共通化を図り、院内での患者情報のシームレスな連携を可能としており、業務効率化にも貢献しております。

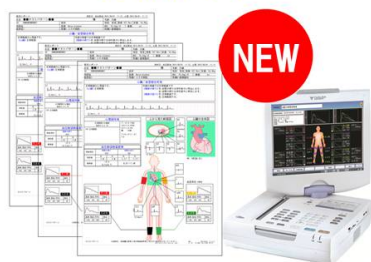


- 続きまして、診療所市場における製品展開です。
- 検査分野においては、超音波画像診断装置の他、昨年度はハイエンドの心電計や血圧脈波検査装置などを市場投入しております。
- 治療関係では携帯型の酸素濃縮器、在宅分野においては、患者さんの状態を管理する、ホームケアマネジメントシステムや医療従事者向け情報サイトなどのサービスを展開しております。

「かかりつけ医」機能をトータルサポート

患者レポートの
充実

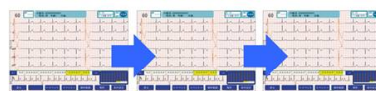
カラーレポートで
より見やすく



血圧脈波検査装置
VS-3000

検査データの
一元管理

時系列比較も容易に



検査データビューアソフト
FEV-80R

検査の効率・
精度の向上

15インチの大画面
電極外れやデータエラー等
お知らせ機能付



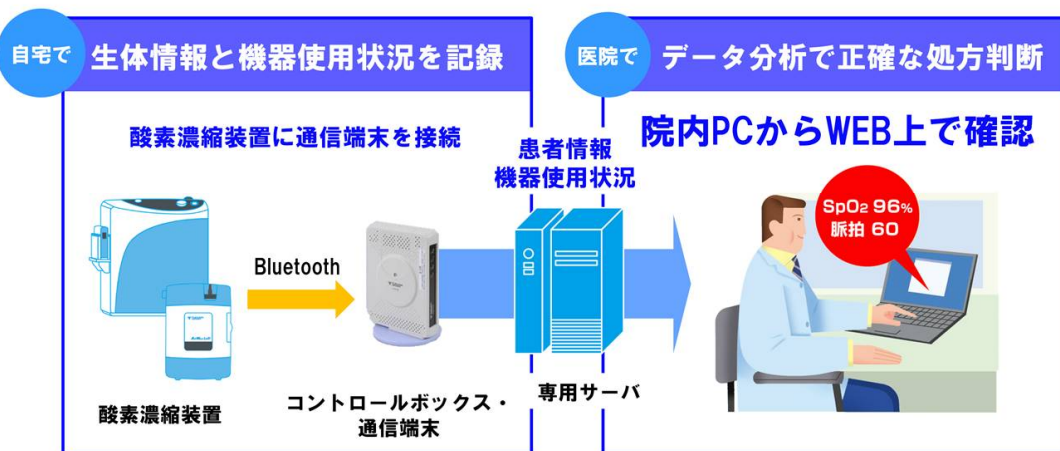
心電図検査装置
FCP-8800

医療環境の充実でさらなる患者満足を実現

16

- 診療所市場においては、「かかりつけ医」機能をサポートするために、短時間でわかりやすい説明を実現する各種製品をご提案しております。
- 具体的には、新しい血圧脈波検査装置などにも搭載されております見やすい患者レポート機能や、検査データを一元管理し、検査結果をその場で説明できるビューアソフトなどによるインフォームドコンセントの充実を図っております。
- また、新しい心電計は15インチの大型モニタが搭載されている他、エラーメッセージなどの表示機能で検査の効率・精度を向上させ、患者満足の実現につながるような製品をご提案しております。

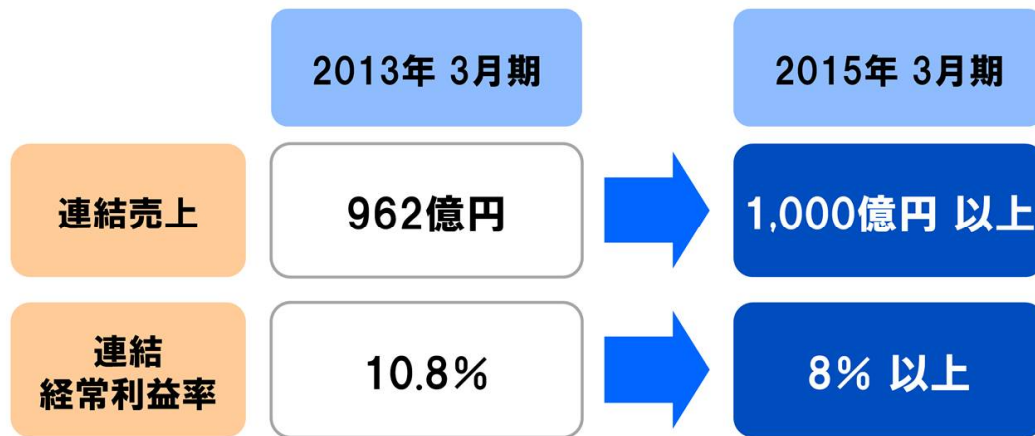
医療従事者向け情報サイト「ほっとけあらいん.com」



Webサイトを通じて在宅医療の見える化をサポート

17

- さらに、在宅医療分野においては、Webサイトを通じて患者の生体情報や酸素濃縮装置の機器使用状況が確認できる「ほっとけあらいん.com」をご提供しております。
- 患者データを医院内で分析することにより、より正確な在宅酸素の処方判断が可能となり、疾病管理への新たなご提案となっております。
- また、従来はデータを記録したパルスオキシメータを、患者さんが医院へ持ち込む必要がありましたが、ネットワークを通じてWebサイト上で確認できることにより、患者さんの負担軽減も実現しております。



18

- 以上の各事業領域における取り組みを踏まえまして、中期の定量目標になります。
- 連結売上目標といたしましては、昨年度の目標を一年前倒しにし、2015年3月期に、連結売上1,000億円以上という目標値を掲げております。
- 一方で、経常利益率を維持しながら、効果的な研究開発投資を行い、持続的に成長するということを目指し、また不確定要素を抱える外部環境を踏まえ、連結経常利益率につきましては2015年3月期に8%以上を具体的な数値目標として掲げております。

中期業績目標 ②



単位：百万円	2013.03 (12年度) 実績	2014.03 (13年度) 予想	2015.03 (14年度) 計画	2016.03 (15年度) 計画
売上高	96,239	98,500	100,000	102,000
海外売上比率	3.6%	4.0%	4.5%	5.1%
経常利益	10,435	10,300	10,300	10,300
経常利益率	10.8%	10.5%	10.3%	10.1%
設備投資 (キャッシュフローベース)	8,042	5,600	5,600	5,600
減価償却費 (キャッシュフローベース)	5,539	5,900	6,100	6,100
研究開発費	3,400	3,500	3,500	3,500

19

○中期業績目標につきましては、今期の売上目標が985億、来年度の2015年3月期までに売上1,000億円を達成し2016年3月期は1,020億円を目標としております。

○また、経常利益につきましては、来年4月に予定されている診療報酬改定の予測が難しいことや、2014年以降検討されている消費税増税による影響、高齢者の医療費自己負担割合引き上げに伴う受診抑制なども踏まえ、103億円を維持するという目標を掲げております。

○設備投資につきましては、前期は仙台の新工場や販売会社の拠点拡充のために数字が膨らんでおりますが、今期以降は毎年56億円程度で推移する見込みです。

○研究開発費につきましては、自社カテーテルの開発など、引き続き投資を継続してまいります。

基本方針

配当性向を重視し、積極的、継続的な利益還元を行います
 連結当期純利益を基準に配当性向30%を目標とします
 2013年3月期の年間配当金は125円を予定しております

配当性向推移

2010.03	42.9%
2011.03	35.0%
2012.03	30.5%
2013.03	30.1%



20

- 株主還元方針といたしましては、引き続き配当性向を重視し、積極的、継続的な利益還元を行うことを基本方針としております。
- 連結配当性向は30%を目安としておりますが、2013年3月期の年間配当金は125円、配当金額は19億3,000万円を予定しております。

【お断り】

この資料に記載されております業績予想数値は、当社および当社グループの事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を及ぼす要因について、現時点で入手可能な情報に基づいての見通しであり将来に亘る部分については、皆様の投資のご参考に資するために、ご提供をさせて頂くものです。

同数値については市況、競争状況、新製品および商品の投入状況など多くの不確実な要因の影響を受け予想と異なる結果になることが有るため、保証をお約束するものではありません。

以上のことを、ご認識頂き、ご活用をお願い致します

この資料に関するお問合せは、下記にお願いいたします。

経営企画部：福田・久野

TEL: 03-5684-1558 FAX: 03-5684-1577 email: info@fukuda.co.jp



〒113-8483 東京都文京区本郷三丁目39番4号

2013年5月 決算説明会資料 証券コード:6960 Copyright 2013 Fukuda Denshi Co., Ltd. All right reserved